

1. はじめに

阿賀野市教育委員会（以下、市教委）は、令和元年9月から土橋遺跡（どばしいせき）発掘調査を実施しています。

今月から月1回「発掘調査だより」に調査の様子を紹介していきます。写真や図などを使い、わかりやすくお伝えしたいと思います。よろしくお願いいたします。なお、発掘調査は阿賀野市が委託した株式会社帆苺組が実施しています。

2. 遺跡の概要

土橋遺跡は市内百津地内に位置します。遺跡は、土橋集落～JA北蒲みなみ農業協同組合カンントリーエレベータ付近に広がります。今回、一般県道新関水原停車場線道路改良工事に伴い発掘調査を実施することになりました。

遺跡には上面・下面があり、それぞれ時代が違う遺跡が重なっています。上面は約1,000年前の平安時代、下面は約4,000～3,500年前の縄文時代後期前半の遺跡になります。10月現在、上面の調査を行っているところです（第1図）。

3. 大型の建物跡

上面では建物群が発見されました。発見された建物群は5棟（第4図 建物1～5）で、それぞれの建物が計画的に配置されているようです。なかでも建物1（第2図）は、全長12m、面積は約66㎡（20坪）もあり、建物2～5に比べてとても大きな建物になります。おそらく中心的な建物であったことが想像されます。

柱穴の掘り方のかたちは方形（四角形）が多く、約70cmの大きさのものもあります（第3図）。この掘り方に、建物を支える柱が据えられていました。柱材は残っていませんが、柱穴の断面には柱の跡が残っています。柱の太さは15～20cmのものが多いようです。



第1図 発掘調査のようす

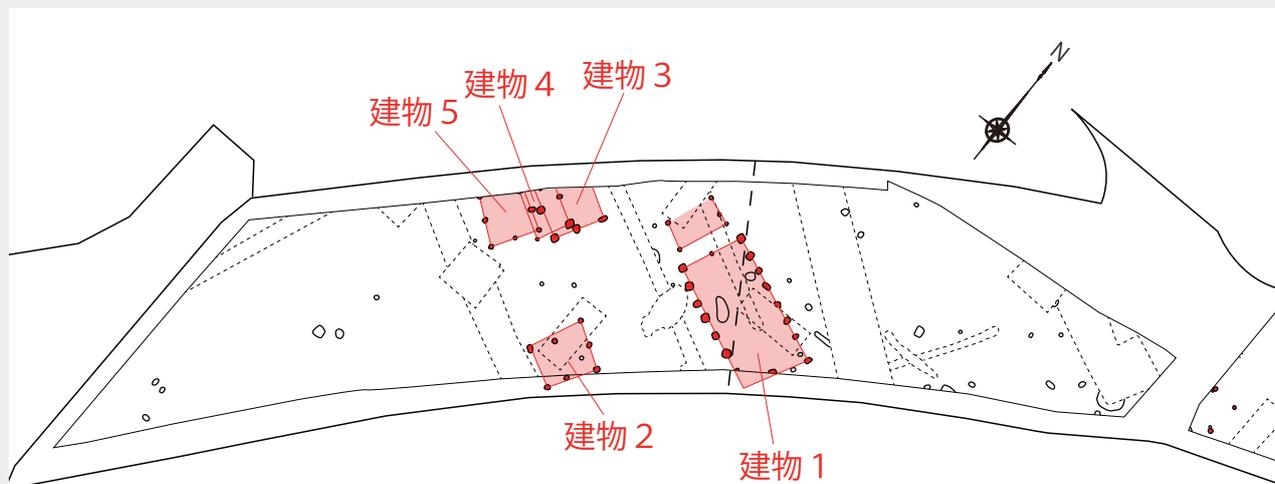


第2図 大型建物跡（建物1）



第3図 柱穴の平面（左）と断面（右）

このような大型建物はどのような場所にあったのでしょうか。市内では、堀越地内の蕪木（かぶらぎ）遺跡で、面積約 65 m²の大型建物 1 棟が発見されています（鈴木ほか 2019）。出土物などから、平安時代の有力者の居宅であったと考えられています。今回発見された大型建物は蕪木遺跡と同規模ですが、大型建物を中心として整然と建物群が並んでいます。公的な場所、すなわち当時の役所跡であった可能性もあります。



第4図 掘立柱建物の配置

4. これからの調査に向けて

平安時代の役所跡からは、文字が書かれた墨書土器（ぼくしょどき）・木簡（もっかん）などが出土することが一般的です。ところが、土橋遺跡周辺ではすでに旧地形が改変され、遺跡の一部は削られています。そのため、当時の道具の大半はすでに無くなっています。出土物は、平安時代に用いられた須恵器（すえき）・土師器（はじき）の破片のみで、建物群のくわしい時代・性格を知るための情報がとても少ない状況にあります（第5図）。

今後、建物群の柱穴の本格的な調査をはじめます。柱穴の中から、より多くの情報を発見したいと考えています。

【引用・参考文献】 鈴木俊成・石橋夏樹ほか 2019『蕪木遺跡』（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団



建物1 柱穴出土の
須恵器（すえき）
（約1,000年前）

「杯（つき）」と呼ばれる食器が出土しています。これらは地元の笹神窯で焼かれたものです。

第5図 平安時代の土器